

マンスリーサポーターを募集しています

たねとしずくの活動はみなさまからの寄付によって活動しております。
毎月、定額をご寄付いただくことで子ども達への支援を安定的に継続することができます。
ぜひ、サポーターとして応援してください。



詳しくはこちらを
ご覧ください。

NP0法人こどもサポートステーション

たねとしずく

■ オフィス : 〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22 早川総合ビル3F
■ ライブラリー : 〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町12-5

Mail : tanetosizuku@gmail.com



たねとしずくHP



Instagram



X



2024年度 活動報告書

ひとり親家庭のこども達と つながる伴走支援

アウトリーチ支援と居場所支援の両輪で支える

休眠預金活用事業



NP0法人こどもサポートステーション

たねとしずく
こどもサポートステーション

たねとしずくとは？

設 立

- ・2022年7月任意団体として活動開始
- ・2023年1月NPO法人化
- ・2023年8月「たねとしずくライブラリー」開館

活動場所

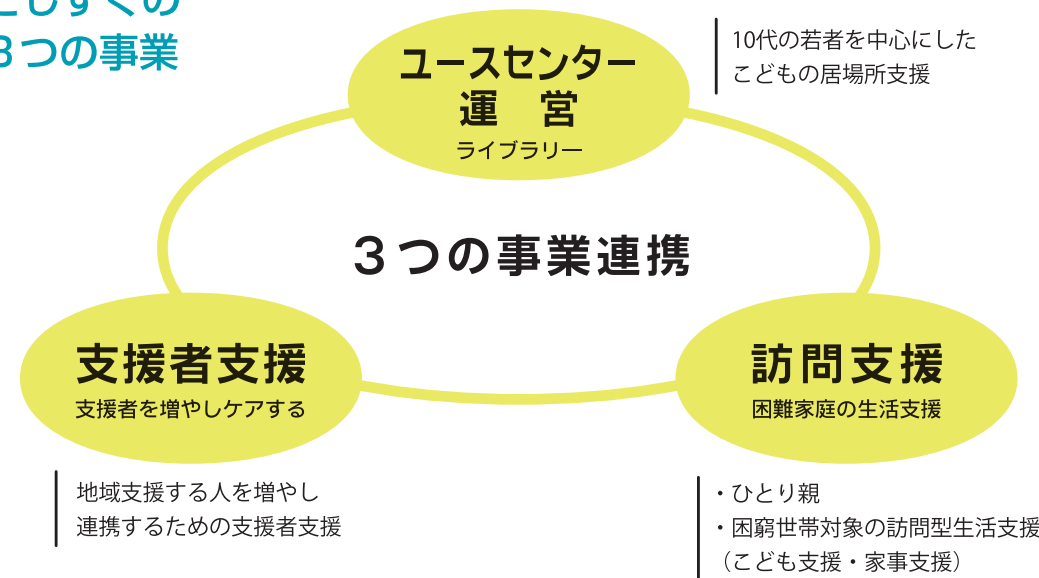
兵庫県西宮市

ビジョン

すべてのこども達が尊厳を守られ、のびやかに育ち、自分の人生を選ぶ社会の実現

こども達が生まれ育った環境に左右されずに、安心して暮らせ、こどもらしい成長を遂げ、自分が望む人生を選ぶ社会、すべての人が生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざします。

たねとしずくの 主な3つの事業



たねとしずくの強み・特徴



新しい市民参画のかたち

一箱本箱サポーターとマンスリーサポーターによるこども支援の関わり



こどもの尊厳を守るしくみづくり

大人による暴力の防止の「9つの約束」を策定。スタッフ、理事、ボランティア等、当団体の活動に関わる人と共有。

若手スタッフの活躍

こども達のロールモデルとなるような学生や20代のスタッフ等が主体的に活動できる場の創出



2024年こんな事業に取り組みました

ひとり親家庭が地域とつながる 本と笑顔の居場所プロジェクト

休眠預金活用事業：2024年5月10日～2025年2月末実施



目 的

- 困難な状況のひとり親家庭とつながり、支援する
- 定期的に出会う方法をもち、自立に伴走する

方 法

1 食料支援 困窮家庭を対象に月1回35家庭に配布	2 養育が困難なハイリスクな家庭の生活支援 訪問し家事と子育てを手伝う
3 ひとり親家庭のこども達が過ごせる 場所の運営 週3日間：食事支援・学習支援(0歳～10代専用)	4 ひとり親支援をする人を増やす ための活動 支援者育成講座の開催・視察等

Q なぜ、このような事業が必要なのでしょう？

A

それはコロナウイルス拡大によって、今でもひとり親家庭に影響がでているからです。

当団体独自のアンケートによると（2023年5月実施）

「収入が減りこども達の成長に必要な遊びや学びの経験が減った」と感じる半数が以下のように回答しています。

- コロナ以前に比べて収入が悪化した……………50%
- 物価高騰による影響で生活がとても苦しくなった……………60%以上
- 経済的な理由によってこどもが学習塾や習い事に通うことをあきらめざるを得なかった…51%
- 本を買い与えたり、誰かにもらう習慣がない……………50%以上
- こどもに本や漫画などを買い与えたことがない……………64%

実際に家庭訪問をすると家に絵本や図鑑、漫画などがいない家もあり、また読み聞かせの習慣がない家庭もあります。どんな本を買い与えていいのかわからないことや経済的な理由があがっています。

家の中で孤立するこども達の存在

コロナウイルスが蔓延して以降、人とのコミュニケーションに不安を覚え、友達と遊ぶことを避け、家庭内でタブレットを終日見て過ごすような状況もあります。ひとり親家庭の中には、仕事が理由で日中に限らず、夜間もこどもだけで家で過ごしている家族がいます。

乳幼児を育てる親の孤立

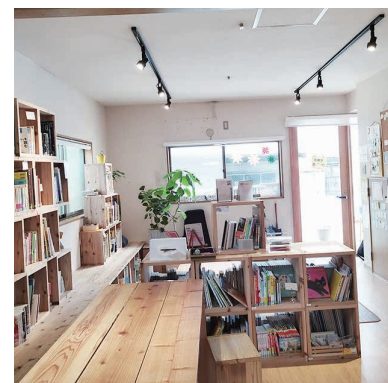
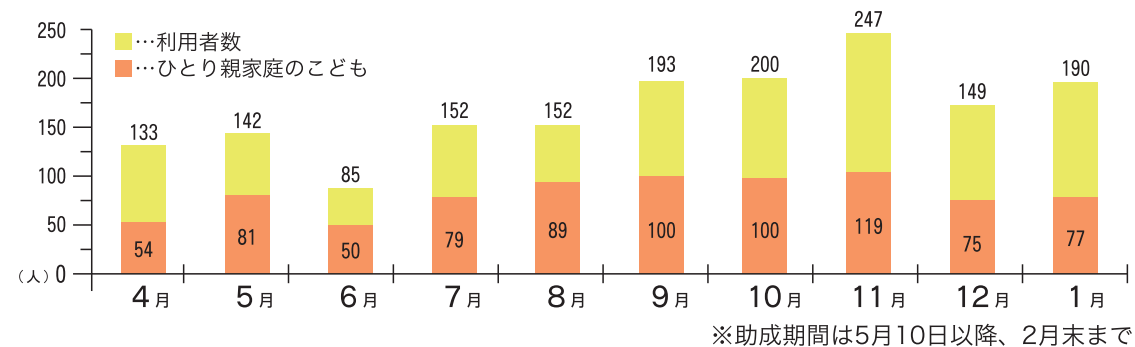
乳幼児の親への聞き取りによると、「親同士の交流の場が少なくなった。日常の相談ができずに一人で悩みを抱え、こどもとの関係に閉塞感を感じている。」という声がありました。時には虐待リスクが高まり、行政から当団体に訪問支援の要請が入ることもあります。このような課題を解決するためには、親子が気軽に立ち寄り、人とのコミュニケーションのある場所で本に触れ、遊びや学習の機会が得られる環境を整えることは急務であると考えます。

ひとり親家庭のこども・親子が利用しやすい居場所 「たねとしずくライブラリー」

事業内容

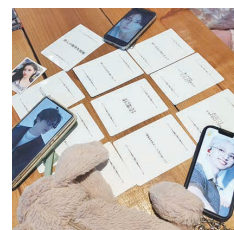
こども達が安心して遊んだり勉強できる時間を提供しました。主に学生スタッフがこども達との時間を過ごし、年齢に応じて、遊びの種類や学習補助など、個々に合わせた支援を行いました。開館日の夕方には「10代応援食堂」を開催し、中高生を対象に食事提供を行いました。

参加人数



こどもの「すき」から始まる多様な リクリエーション

利用者間のコミュニケーション向上、こどもが自主的に取り組める工夫として毎月イベントを開催しています。4月からの2025年3月の間に実施したイベントは30回以上。1階ライブラリーの本を活用したブックトークだけでなく、スイカ割り、硬質ケースデコレーション、スポーツ大会など多種多様なイベントを実施しました。



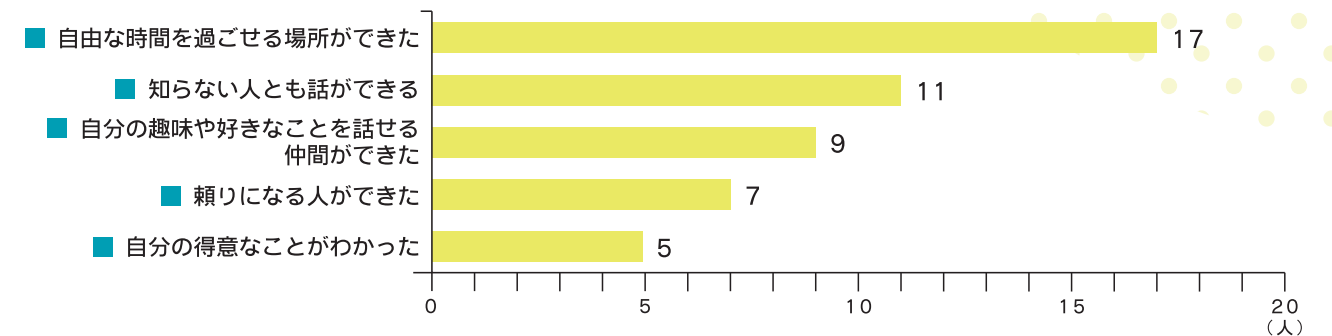
乳幼児を持つシングルマザーが来やすい場の提供

- ① 毎週土曜日 乳幼児を持つシングルマザー対象
 - ② 月1回水曜日 乳幼児の親子対象（シングルマザーに限らない）
- に場所の提供を行いました。
孤立しやすい乳幼児を持つおやさんのほっと一息つく場になっています。



子どもたち一人ひとりに 寄り添える居場所にするために

「たねとしずくライブラリー」を利用して、自分が変わったと感ずることは なんですか？



インターンにインタビュー

Q1 たねとしずくを利用しているのはどんなこどもたちですか？

Bさん



おもちゃが大好きな乳幼児、学校が終わってから来る中学生や高校生、こどもと遊んでくれる大学生など、様々な年齢のこどもが来ます。こどもたちの背景も様々ですが、一人一人がライブラリーを自分の「居場所」として利用してくれています。

Q2 こども達と関わる上で大切にしていることを教えてください



私はこどもたちに、安心と楽しさとあたたかさを感じてもらいたと思っています。話したい子もいれば話したくない子もいて、遊びたい子もいれば遊びたくない子もいます。こども一人一人をよく見て接することを大切にしています。

Q1 どうしてたねとしずくで活動しようと思ったのですか？

Aさん



もともと西宮市内にこどもの居場所が少なすぎると感じていて、ユースセンターにも関心がありました。別のユースセンターの職員さんに紹介をいただいて、たねとしずくのライブラリーの存在を知り、活動することになりました。

Q2 活動をする中で、印象的だったことを教えてください



「スタッフみんなで活動を考えていくこと」です。自分が現場の人間としてルールメイキングにまで関わったりすることはあまりないだろうと思っていました。ですが、実際には些細な対応や、ルールもみんなで話し合ってなんども練り直します。そこが私には非常に印象的でした。

ひとり親家庭の訪問支援 親子の元に出向き身近な相談者になる

事業内容

家事や子育てに困難を抱える家庭をスタッフ2名が訪問し、家事・子育てを一緒に行いました。

- ① 家事およびこどものケア（ペアで訪問）
- ② 絵本の読み聞かせ（ペアで訪問）
- ③ ティータイム（1人で訪問）

訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
家事・子育てサポート	12	17	10	11	7	10	4	9	5	7
絵本訪問	0	0	2	0	1	1	2	2	4	2
ティータイム	1	2	1	0	0	0	0	0	4	0
訪問支援合計	13	19	13	11	8	11	6	11	13	9

※助成期間は5月10日以降、2月末まで

■ たねとしずくだからできるペア訪問で こどももおやごさんもケア

2名で訪問することで、家事とこどもの世話を分担することができます。訪問後には、それぞれの視点でサポートを振り返ることができ、新たな気づきや改善点を見つけることができました。

こどもにとっても遊んでくれる人がいるだけでなく、支援者とおやごさんが楽しそうに話している姿を見るのは嬉しいことようです。2名で訪問支援に行くからこそ、親子どちらにとってもリラックスした気持ちで過ごせるようになります。



初めてお家に訪問させてもらった時は緊張と、普段あまり小さな子どもさんに関わる機会がないので、どう接すればいいのか分からなくて不安でした。でも、何度か同じお家を訪問させてもらって、その子は何が好きなのか、何をして遊ぶのが好きなのかだんだん分かるようになってきて、初めての時と比べるとどのように関わっていったらいいのか少しわかったような気がしました！また、訪問することで保護者の方は安心されているように感じて、何度も訪問することで信頼関係を築くことができ、頼ってもらえるようになるんだなと思いました！あと子どもさんがかわいくて癒されます。

学生
スタッフの
声



食料支援 親子が食事を我慢することがないための「たねとしずくパントリー」

事業内容

野菜や卵などの生鮮食品、缶詰やインスタント食品、日用品などを月に1回家族の人数分を無料で配布しました。食品は助成金で購入するほかに、フードバンクや企業、個人からのご寄付によって調達しました。

取りに来た時には、親同士の交流スペースを設けて生活の変化などをお聞きし、こども達は学生スタッフと遊んで過ごします。臨床心理士が入り、話がスムーズに進むようサポートしています。

配布数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
家庭の数	33	33	39	34	36	33	40	34	42	39
配布食品数	87	94	112	104	102	89	110	100	130	112

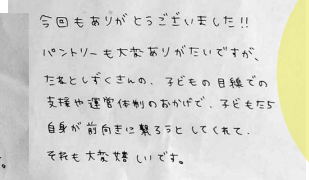
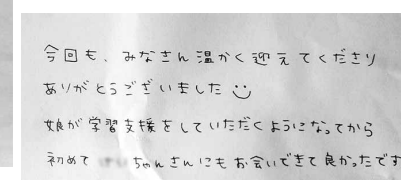
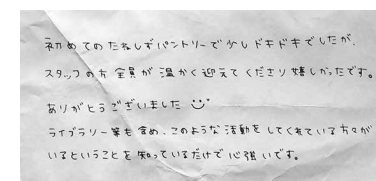
臨床心理士がいるから発見できる気づきがあります

パントリーには、誰もが気軽に休憩＆雑談できるティータイム・スペースがあります。私はそこになんとなく存在しているスタッフ(心理士)として、出逢ったおひとり、おひとりの背景に心を寄せながら、心も体もホッと一息つける空間作りを心がけています。はじめましての人も常連さんも、「最近どう?」「わかるわかる〜!」そんな他愛のない会話を通して共感と笑顔と安心が生まれる温かい場所になっています。

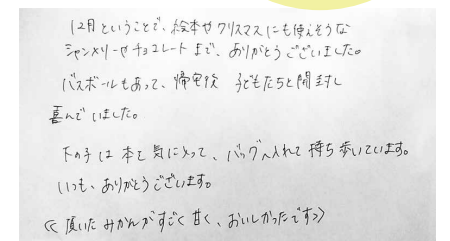
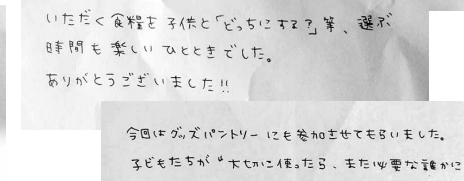
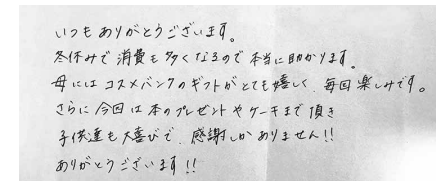
臨床
心理士の
声



■ こどもたちの笑顔が、私たちの活動の源です。



2024年も
たくさんの
「ありがとう」を
いただきました



クリスマスには
食品だけでなく
本とホールケーキを
プレゼントしました



ひとりでも多くのこどもたちとつながるために 活動の普及と継続のための事業

Ⅰ 他団体の視察

目 的

当団体と同じようにこども支援を行っている他団体を視察し、現状と課題を伺いました。普段と異なる視点から解決策や新しい活動を生み出すきっかけとなりました。

視察先

- 認定NPO法人パディチーム（東京都新宿区）
- 家庭学習応援施設My Place（兵庫県西宮市）
- ヒトノネ（岐阜県岐阜市）

Ⅰ「保育に携わる人たちの情報交換会」開催

今年度はこどもの支援のフロントラインに立っている保育士さんと現在のこども達や家族の様子などをお聞きする時間を持ちました。当団体の活動についても知ってもらえる機会になりました。（4回開催）深い交流ができるよう、普段、こども達に読み聞かせている本やおすすめの本を持ち寄り、紹介しあいました。「なぜこの本を紹介したいのか」や「保育に携わる上で普段感じていること」などについて話し、質問し合いながらお互いを知る時間になりました。

保育士さんの 感想



情報交換会に初めて参加したときは、とても緊張していました。一緒にカレーを食べながら打ち解けて、ブックトークになると、少しずつ、その人の好きな本の話に引き込まれていって、あっという間に終わりにになりました。保育等に携わっていたり、たねとしずくで人と関わろうとする人たちには、人の助けになりたいという大きな共通点があり、安心して自分を出せる貴重な場だと思いました。機会があればまた参加したいです。



Ⅰ 子どもの権利条約フォーラム2024 in 東京 認定NPO法人ムラのミライさんと一緒に分科会に参加、登壇しました



本のある居場所（ライブラリー）で子どもの声を聴く～まちのライブラリーの実践報告と子どもの話を聴く技術（メタファシリテーション）ミニワークショップ～の中でたねとしずくの事業内容、たねとしずくライブラリーでのこども達との関わり方についてお話しさせていただきました。

より安心して利用できるライブラリーを目指して

Ⅰ 施設の設備の充実



たねとしずくライブラリーは0歳から高校生まで幅広い年齢のこども・若者達が利用しています。0～10代の若者たちが安全に利用できるよう、施設の整備を進めています。今年は、階段に手すりをつけたり、こども達の荷物置き場を設置しました。入口に手洗いスペースを作りました。また、2階の学習室にドアをつけることで集中して学習に取り組める環境を作りました。

Ⅰ 本でいっぱいの空間をつくる

利用者が親しみを持てる「本のある居場所」として本100冊、学習教材40冊を購入しました。また、50人の一箱本棚サポーターさんが毎月3000円以上の寄付をしてくださり、こどもたちのための本を本棚に置いてくださっています。



Ⅰ 会話の生まれる本、ひとりになれる本

ライブラリーには50人の一箱本棚サポーターさんの選ばれた本が置いてあります。その内容は多様で50人の姿が浮かび上がるようです。それ以外に、たねとしずくコーナーがあちこちにあります。会話の延長で、手に取って一緒に眺められる絵本や図鑑や話題の小説、ひとりで過ごしたい時に手に入る漫画や科学本、思春期の関心ごととして目につきやすいところに置いてある性教育や哲学の本、やってみたいを後押しするような料理、手芸、イラスト、短歌、詩などの本を置いています。



文化庁の2024年の調査によると「月に一冊も本を読まない」人の割合は62.6%。大人もこどもも、本を手に入る機会が年々少なくなっているようです。しかし、たねとしずくライブラリーでは、「折り紙しよう」と誘いながら本棚から折り紙の本を探してきたり、こども達の会話を聞いて「この『おとな六法』に書いてないかな?」と手渡してみたり。こども達に人気の本を大人も読んでみたり、ジャンルや年齢層にとらわれず、「誰かの好きな本」を置いています。



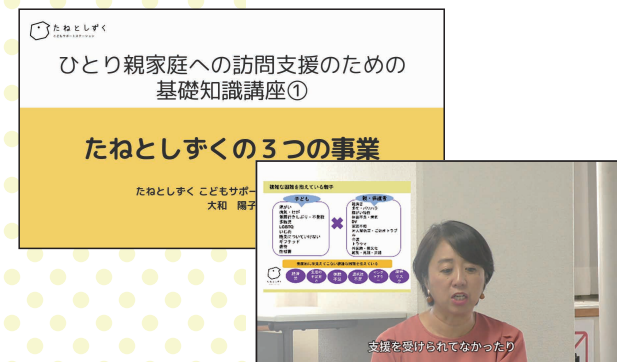
支援者育成と活動の普及

Ⅰ「ひとり親支援のための基礎知識講座」開催

- 講座1 たねとしずくの3つの事業**
講師：たねとしずく 代表理事 大和陽子
- 講座2 子ども家庭への予防型支援家庭訪問型支援の位置付けと意義を考える**
講師：関西大学 教授 吉岡洋子
- 講座3 ひとり親家庭の現状とエンパワーメント**
講師：しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト代表 安木麻貴
- 講座4 家庭訪問型支援の実践と今後の可能性**
講師：NPO法人パディチーム 代表 岡田妙子



Ⅱ 動画教材の作成



実施した講座を活用するため、動画教材を作成しました。今後、ひとり親支援に関して内部の研修に利用します。

Ⅲ 訪問支援サポートブックの作成



訪問支援に行く際の流れや注意事項、心構えをマニュアルにしたサポートブックを作成しました。このサポートブックを利用することで、支援者の疑問や不安を解消することができるようになりました。

Ⅳ 連携団体と安心して協働できる仕組みづくり

連携団体との支援における守秘義務の取り扱いなどを書いた「覚書」及び「個人情報特記事項」を作成しました。また、メディア向けの取材における諸注意を記載した書類を作成し利用を開始しました。

Ⅴ メディアに掲載されました

たねとしずくライブラリーが開館から1年を迎えたこともあり、新聞に掲載いただきました。ライブラリーの存在だけでなく、子どもたちやおやごさんを取り巻く環境、困難についてもお話しさせていただき、広くたねとしずくの活動を知ってもらった機会になりました。



今後の展望

Ⅰ 現状と課題

- | 目指している姿 | 現状 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 子ども達に体験格差がなく、望んだことにチャレンジできる 子どもが安心して立ち寄れる場所が学校区内にある こどものSOSに気付いてみんなで子ども達を支える | <ul style="list-style-type: none"> 子どもがチャレンジできるリソースが少ない こどもの生活に関係する地域や企業等との連携が少ない |
| 課題(ギャップ)を埋めるために | <ul style="list-style-type: none"> こどもの現状と多様性(家庭環境・発達特性・外国ルーツ等)の理解促進 こどものニーズに沿ったチャレンジの場の設定 コーディネーターは当団体が行い、協働で企画を運営する |

Ⅱ 今後力を入れたいこと

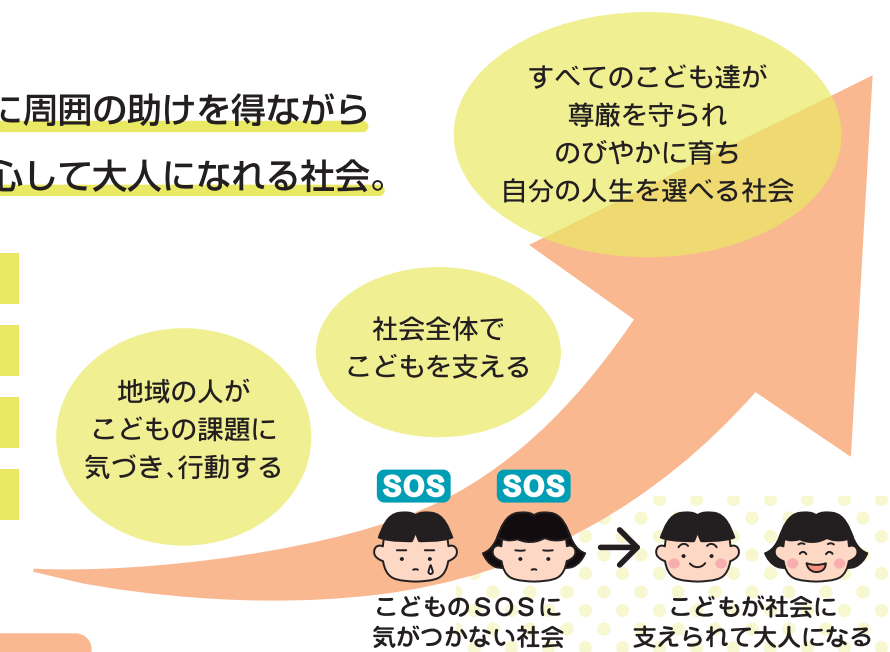
ひとり親・困窮世帯と地域や家庭に居場所がない子ども達の支援

- 不登校の居場所支援
- インクルーシブな居場所の実現（障がいの有無・国籍の違いなど関係なく誰でも一緒にいられる場所）
- 困窮世帯のこどもの学習支援
- 小学生以下の親子の体験の場の提供
- 子ども達の「食」のセーフティネット作り

Ⅲ 未来の展望

子ども・若者達が孤立せずに周囲の助けを得ながら
自分の望む進路に進み、安心して大人になれる社会。

- 「居場所」が学校圏内にあること
- 虐待がないこと
- こどもの自殺が0になること
- ヤングケラーがいなくなること



教育 × 福祉 の融合
学び・体験 遊び 食 ケア
 小規模多機能ユースセンター
 たねとしずくライブラリー

